

内容重視の言語教育の内容とは何か — 社会参加をめざす人間育成教育の意味 —

6月30日（土）14:50 - 15:20

武蔵野大学有明キャンパス 3号館 301-302

批判的言語教育国際シンポジウム 未来を創ることばの教育
をめざして：内容重視の批判的言語教育（Critical Content-
Based Instruction: CCBI）のその後

<http://www.cocopb.com/ccbi-conference/home.html>

細川 英雄（言語文化教育研究所八ヶ岳アカデミア）

はじめに—ことばによって人は何をめざすのか

- 人がことばによって生きるとは？
- 社会的行為主体 **social actor** として
- 他者ととともに
- どのような社会を／に生きるのか

- ことばの教育は、人と社会をつくる



1 ことばの活動とは何か

-見えない構造・システムの体得

身体—感覚(感じる)

ことば 自己・他者・社会を結ぶ

表情・仕草・言語

精神—感情(思う)

思考—論理(考える)



2 ことばの教育の推移と立場・考え方

年代	傾向	目的	考え方	立場	呼称
1960年代	構造言語学的	「何を」言語知識	言語知識向上	教師主導	文型積み上げ
1970・80年代	応用言語学的	「どのよう」言語スキル	コミュニカティブ・アプローチ コミュニケーション能力向上／育成	学習者中心	CBI
1990年代	社会構成主義的	「なぜ」人間形成	社会的行為主体 社会参加／市民性形成	学習者主体	CCBI 総合活動型



3 教育でどのような社会をめざすのか

- 個人一人ひとりが自由に幸せに暮らせること
- 一人ひとりの考えが活かせること（民主的対等性）
- それぞれの価値を認めること（価値の多様性）
- 新しい想像と創造を生むこと（新しい価値観）



4 どのような活動によって社会はつくられるのか

- 現象学における「本質観取」
 - 問題提起にしたがって、それぞれの経験を出し合う。
 - 自己と他者との比較・検討を行う。
 - 価値観・立場・背景を踏まえ、何らかの**共通理解**が生まれるまで、開かれた言語ゲームを展開する。
 - 説得と納得のプロセスを経て、信念対立による**共通不理解**を乗り越え、**自由の相互承認**によって**共通ルール**成立をめざしていく。
- 竹田青嗣・西研「「本質観取」とは何か」

<http://www.phenomenology-japan.com/honntai.htm>)



5 ことばの教育における活動のあり方

- 社会と個人（自己）を結ぶ課題（問題のテーマ性）
- 自分の考えを他者に発信する（自己の主張と発信）
- 他者の価値観を受け止める（文化の仲介性）
- 対話（開かれた言語ゲーム）による合意形成（共通了解）
を図るー公共性を持つことばの活動

- CCBIの内容とは、この活動のプロセス自体、
- 「言語⇔内容」の内容とは異なる、プロセスベース？



6 何のためのクリティカルか

- クリティカルとは、現象の批判か？
- 本来的（本質的）なものを問う力、「なぜ？」は、「そもそも〇〇とは何か」という問い（個人とは何か、社会とは何か、人間とは何か...）
- この問いを持つことによって、目の前の課題にのみ追われる状況を回避できる。
- CCBIは、CBIを批判しているのではなく、「内容」とは何かという問いを発している！



7 ことばの教育実践と世紀末新教育運動

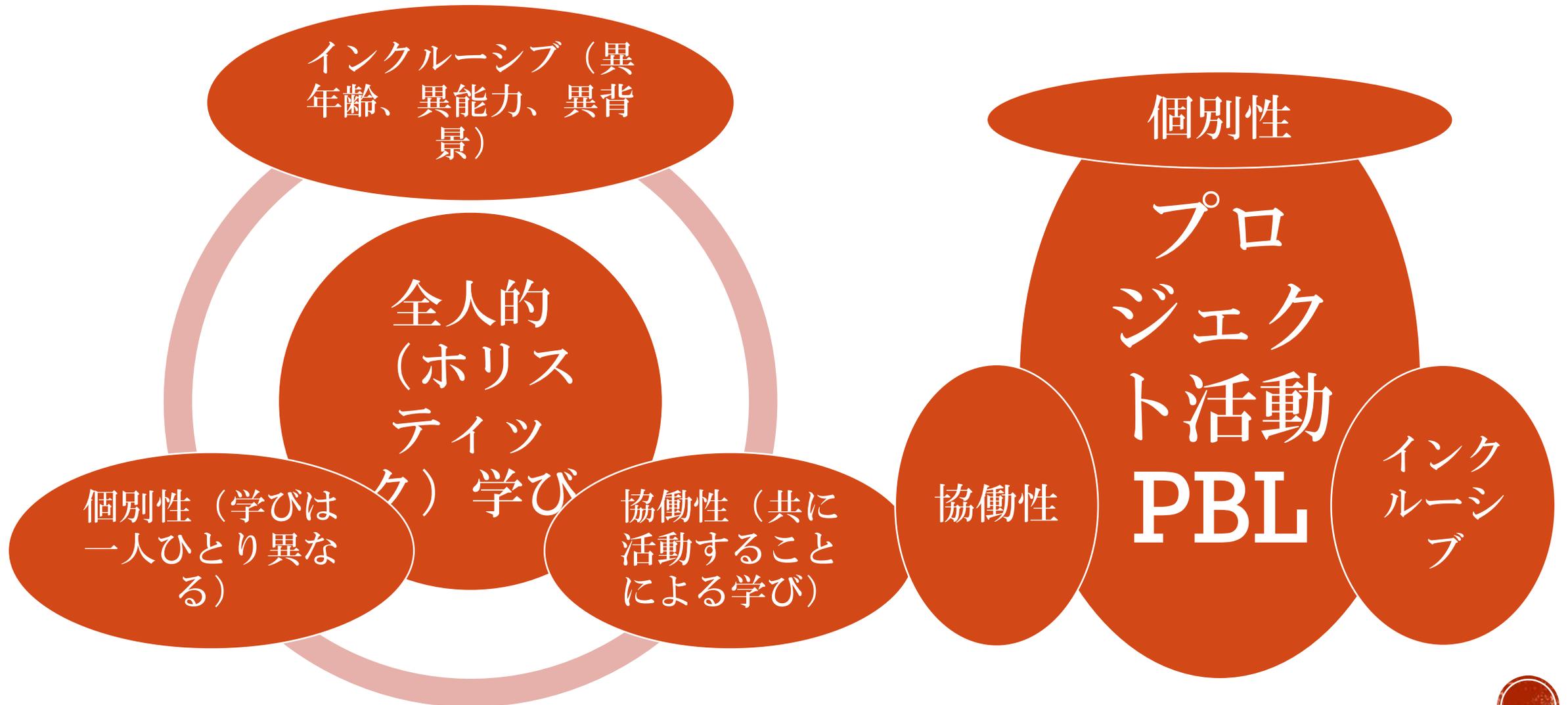
□特徴と共通性

- 全人的（ホリスティック）学び
- 個別性（学びは一人ひとり異なる）
- 協働性（共に活動することによる学び）
- インクルーシブ環境（異年齢、異能力、異背景）

- プロジェクト活動（自分あるいは自分たちで問いを立て、それを解決するための活動母体**PBL**）



新しい実践のための構想図



8 社会参加をめざすことばの教育のあり方へ

- 自己・他者・社会をつなぐ対話のできる個人へ
(個人と社会の循環の重要性)
 - 「この私」はどう生きるか
 - 他者と共に生きるために何が必要か
 - 「どのような社会をつくるのか」
- 社会参加／政治意識／市民的態度の形成へ
- ことばの市民になる—ことばを使って社会で活動する個人になる／をつくるための発信基地が必要



学びの構造と展開

どのような社会をつくるか
コミュニティとしての共同体をとも
に創るために何ができるのか

想像・創造

発信基地としての
思考・対話

情報・知識

